

2015年冬

福島を感じて考えるスタディツアー

「スタ☆ふく」会津日本酒ツアー

蔵人の想いに迫る “よい” 酒 会津旅

～日本一の酒 会津(ここ)にあり～

活動報告書

2015年3月

企画：スタ☆ふくプロジェクト



助成：住友商事 東日本再生ユースチャレンジ・プログラム—活動・研究助成—2014年度
公益法人協会 「東日本大震災 草の根組織応援基金」 助成対象事業

0. 目次

0. 目次	2
1. はじめに	3
2. 企画背景	4
3. 企画趣旨・目的	5
4. 組織構成	6-7
5. ツアー詳細	8-20
①概要	8
②アンケート結果	9
③参加者の声	10
④ツアー行程	11-16
⑤担当者の声	17-19
⑥本ツアーの価値・評価	20
6. 広報／メディア掲載について	21-22
7. ご協力いただいた方々	23
8. 総括	24
9. 問い合わせ先	25

1. はじめに

福島のリアルを感じてもらえるようなツアーをつくろうと、2012年4月から始まった『スタ☆ふく』のツアーも今回で11回目を数えることとなりました。「スタ☆ふく 会津日本酒ツアー2015 蔵人の想いに迫る “よい” 酒 会津旅～日本一の酒 会津(ここ)にあり～」と銘打った今回のツアーでは、19名のお申し込みをいただき、ツアーを実施することができました。これも本企画にご協力いただいている多くの方々のおかげであります。そんな方々への感謝の意を込めつつも、より多くの方々に私たちの活動を知っていただくべく、本報告書を作成しました。

この報告書が、私たちの活動を知るきっかけとなれば幸いです。



1日目参加者集合写真—末廣酒造嘉永蔵にて—

2. 企画背景

「福島現状を、実際に見て体験することで、福島への関心を深めてほしい。」という思いのもと、2012年4月JASP(Japan All Student Project)という団体の1プロジェクトとして発足し、企画されたのが“福島を感じて考えるスタディツアー「スタ☆ふく」”でした。

これまでに県内7か所で計10回、福島県内外から計251名を動員するスタディツアーを実施してきました。地域の人々との交流に重点を置いたプログラムを通して、福島のありのままの現状を伝えることや、その地特有の課題に向き合う人々の「生の声」を発信していくことで、風評被害の払拭や福島への関心の高度化などをはかり、震災からの復興や地域活性化の一助となるようなツアーの企画にあたっております。参加者ならびに地域関係者からは「今後とも継続的にツアーを実施してほしい」という声を多くいただきます。

企画者自身の私たちが、一番に「福島」から学ぶこと、そして、福島の「リアル」を発信し、ツアー参加者や地域の方々と共に「復興とは」ということや、福島や各地域の「未来」について、今後も考え続けていきたいと考えております。地域と参加者をつなぐ架け橋となれるよう、今後も継続的に活動をしていきます。

今冬の「会津日本酒ツアー2015」は、福島県会津若松市及び会津坂下町で行われました。会津とスタ☆ふくの関係は昨年度、会津若松酒造協同組合と日本政策投資銀行が主催した「学生が考える会津日本酒プランコンテスト」に協力団体として関わったことが始まりです。会津や日本酒、地域の産業に関わる人々の魅力や、抱えている課題などを見てきた経験をもとに、新たな関わり方として、スタ☆ふくプロジェクトがメインの事業としている旅行企画を行うこととなりました。

また、「会津の人」に焦点を当てながら会津地域や日本酒の魅力を知ってもらうことを通して、震災後の福島や地域産業の可能性を感じ、考えてもらうきっかけとなればと思ったことが、本ツアーの企画実施に至った背景となります。

3. 企画主旨・目的

会津地方は、福島県西部一体を占めていて、「良い米」「良い水」「良い風土」という酒造りに必要 3 要素を兼ね揃えていることから日本酒造りが盛んに行われています。しかし、現代の若者にとって日本酒は手が出しにくく縁遠い存在であると思われます。このような状況の打開策として、日本酒の造り手、売り手といった会津の日本酒に携わる人々と日本酒に対する情熱や地元会津への愛を直に感じ、交流することで日本酒に対するイメージを向上したい。そして会津の日本酒を通して、会津そのものの「ファン」を創出したい、という思いのもと企画に当たりました。

<企画目的>

- 会津の日本酒に継続的に関わってくれる「ファン」の創出
- 会津の日本酒の様々な魅力を理解し、地域の人と参加者が交流することで、生産者と生産者との顔が見えるつながりをつくる
- 日本酒を通して会津、福島への関心を持つ人材の創出
- 地場産業の活性化

<企画目標>

- 定量目標
 - ・会津の日本酒の魅力を知って好きになってもらう
 - ・会津の日本酒に関する知識、理解を深める
 - ・会津の日本酒を飲む人の増加
 - ・会津地域での継続的なツアーの開催
- 定量目標
 - ・参加人数 15～20 人程度
 - ・参加者満足度 90%以上

4. 組織構成

『スタ☆ふくプロジェクト』は2013年4月に母体団体であった『全国学生プロジェクト(JASP)』から分離独立しました。スタディツアー事業の活動開始は2012年4月であり、これまで福島県いわき市、二本松市、喜多方市などでスタディツアーを実施してきました。全メンバーが福島大学の学生によって組織された組織で、2015年3月1日現在15名で活動を展開しています。

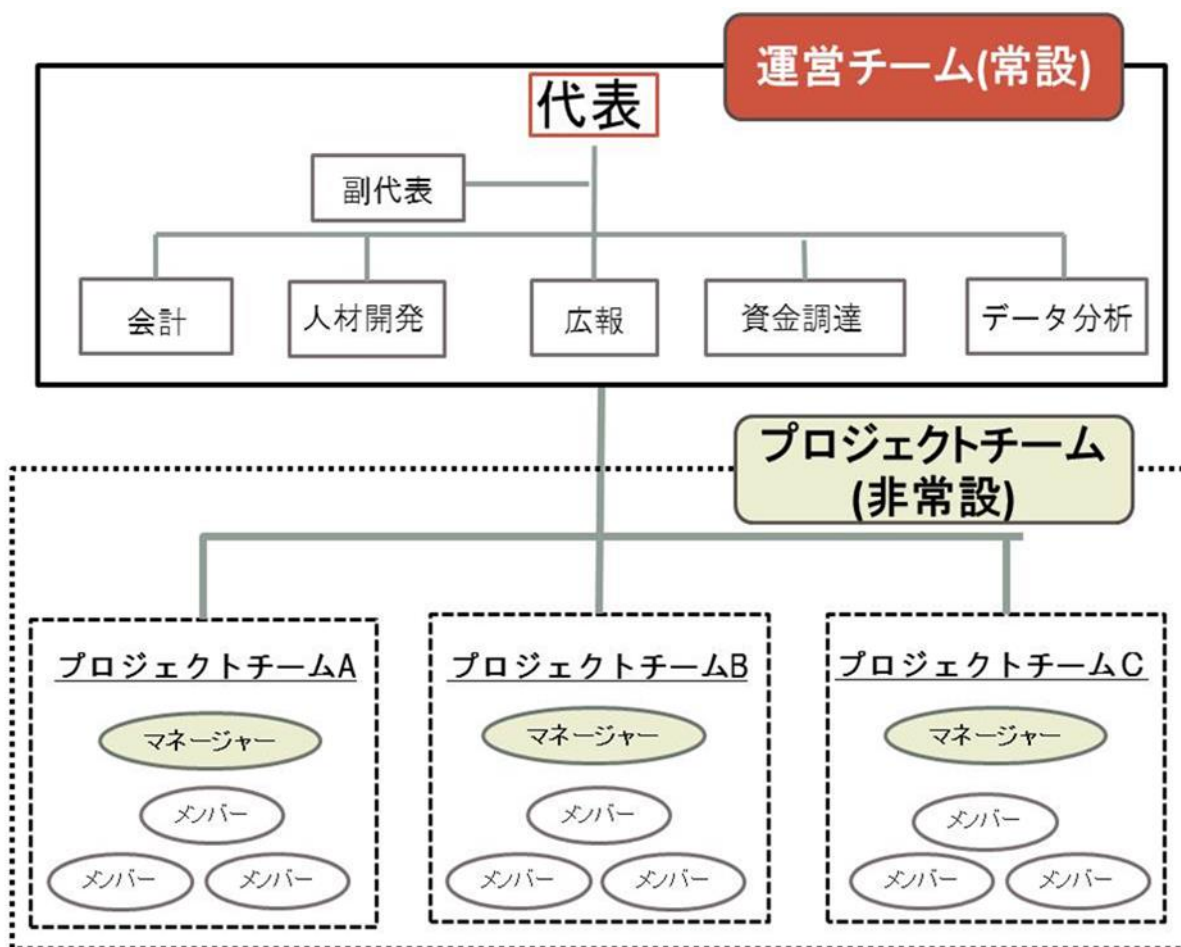
【ビジョン】

「先進的な地域活性化モデルとしての福島」

【受賞歴】

2013年6月 観光庁主催『若者旅行を応援する観光庁官賞「東北ブロック賞」』受賞

【組織図】



【構成メンバー（2015年3月1日現在）】

～運営チーム～

代表 吉田江里 人間発達文化学類 3年
財務 武藤茉奈美 人間発達文化学類 3年
人材開発 遠藤はるひ 行政政策学類 3年
広報 羽賀さやか 行政政策学類 2年
データ分析 阿部晴佳 行政政策学類 2年

～活動メンバー～

安斉舞 行政政策学類 3年
黒澤和也 経済経営学類 2年
國分花菜 経済経営学類 3年
霜山翼 共生システム理工学類 2年
十日市大貴 共生システム理工学類 2年
田辺将大 共生システム理工学類 2年
三浦菜生 行政政策学類 2年
吉田光希 経済経営学類 3年
渡邊啓太 経済経営学類 4年
渡部直子 人間発達文化学類 2年

プロジェクト開始：2012年4月 団体発足：2013年4月

【過去のスタディツアー】

2012年8月 「スタ☆ふく水産漁業ツアー」 いわき市（32名動員）
2012年9月 「スタ☆ふく観光ツアー」 喜多方市（27名動員）
2012年9月 「スタ☆ふく農業ツアー」 二本松市（25名動員）
2012年12月 「スタ☆ふく冬ツアー」 二本松市（18名動員）
2013年8月 「スタ☆ふく水産漁業ツアー2013」 いわき市（37名動員）
2013年9月 「スタ☆ふくまちづくりツアー」 二本松市（33名動員）
2013年11月 「スタ☆ふく福島の子どもツアー」 郡山市（15名動員）
2013年11月 「スタ☆ふく福島の食ツアー」 福島市（12名動員）
2014年8月 「スタ☆ふく保原×霊山おたのしみイベント」 伊達市（20名動員）
2014年8月 「スタ☆ふく水産漁業ツアー」 いわき市（32名動員）

【団体連絡先】

〒960-1296 福島県福島市金谷川1 福島大学学生課 「スタ☆ふくプロジェクト」
Mail : suta.fuku@gmail.com

5. ツアー詳細

①概要

【タイトル】

「スタ☆ふく会津日本酒ツアー2015」
蔵人の想いに迫る“よい”酒 会津旅～日本一の酒 会津にあり～

【実施日】

2015年2月20日（金）～2月21日（土）

【実施場所】

福島県会津若松市・会津坂下町

【参加者動員数】

計 19 名

【参加スタッフ】

遠藤はるひ（プロジェクトマネージャー・福島大3年）
羽賀さやか（福島大2年）
霜山翼（福島大2年）
吉田江里（福島大3年）
三浦菜生（福島大2年）
阿部晴佳（福島大2年）

【参加料金】

19,200 円

（学生先着 10 名には学生料金適用で 9,200 円、それ以降は学生料金適用で 14,200 円）

②アンケート結果

○ツアー満足度全体平均
3.7 / 4.0 ポイント

	1	2	3	4	計 (人)	平均
① ツアー全体について			1	11	19	3.9
② ツアー料金について		1	5	13	19	3.6
③ タイムスケジュールについて		2	1	9	19	3.6
④ お食事について			4	15	19	3.7
⑤ コンテンツ内容について			2	17	19	3.8
⑥ 宿泊先について		2	5	12	19	3.5
⑦ スタッフ対応について			3	16	19	3.8
					全体平均	3.7

○ツアー理解度全体平均
3.7 / 4.0 ポイント

	1	2	3	4	計 (人)	平均
① 日本酒造りの知識の基礎的な知識や工程を理解できたか			3	16	19	3.8
② 杜氏の酒造りにたいする情熱を感じることができたか			0	19	19	4
③ 地域の方との交流を通して、日本酒のおいしさを実感することができたか			3	16	19	3.7
④ スノードロップの背景を知り、携わる人々のこだわりや信念を感じることができたか			2	17	19	3.8
⑤ まとめと振り返りの時間で、会津の日本酒の魅力を自分の言葉で発信することができたか		1	8	10	19	3.4
全体平均						3.7

③参加者の声（一部抜粋）

- ・人生初めての福島県訪問となりましたが、会津地方が日本酒の生産で有名であるということを知らなかったため、日本酒の知識だけでなく、会津出身者の日本酒に対する熱い想いの最前線に迫ることができ、大変光栄です。（20代、男性）
- ・日本酒については、今まで知らなかった詳しい知識を、作り手の方々から直接聞くことができ、とても貴重な体験になりました。日本酒に対するイメージがさらに良い方向に変わり、これからの飲み会の際での楽しみ方が増えました。（20代、男性）
- ・今回は純粋に「地域のよさ、地方の魅力」にスポットが当てられており、主体的にそして、身構えることなく福島に寄り添うことができると思う。「ものづくりの裏側や、人の想いを知ること、また地域の良さを知ること」その楽しさに気付けるいい企画だったと思う。（20代、男性）
- ・とても魅力的な人たちにお会いし、お酒や会津をより楽しめるようなお話を伺えました。自力で来るのより数倍濃く楽しめました（20代、女性）
- ・それぞれの方の会津と商品（日本酒、牛乳）に対する強い想いを感じました。大変貴重な体験をさせていただきありがとうございました。改めて、福島、会津の良さを感じられました。スケジュールにも無理がなく良かったです。（30代、女性）
- ・参加者が意外と学生さんが多く、日本酒が好きで、また、関心のある若い人が多かったことが印象に残りました。これからも、こうしたツアーが継続されることを願っています。（30代、男性）

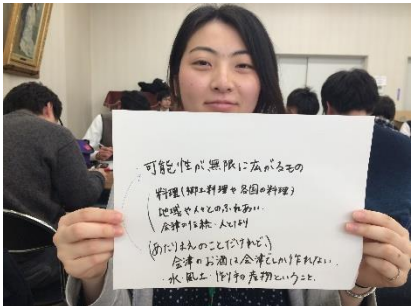

④ ツアー行程

時間	行程	Comment
1 日目【2月20日（金）】		
10:00	郡山駅集合	スタッフが笑顔でお出迎え。 “2日間よろしくお願ひします！”
10:10～11:20	基調講演	<p>福島大学の佐々木康文先生から日本酒の基礎的な知識を教えていただきました。</p> <p>日本酒が歩んできた歴史、会津と日本酒の関わり、特定名称酒、その他日本酒用語解説をしてもらいました。</p> 
	会津若松へ移動	
12:30～13:30	昼食（桐屋権現亭）・自己紹介	<p>お蕎麦をいただきながら、一人ひとり自己紹介をしました。</p> 
13:45～15:15	末廣酒造嘉永蔵見学	<p>小竹晴彦さんから日本酒の造りの行程、日本酒の原料などをわかりやすく説明してもらいました。また、嘉永蔵杜氏佐藤寿一さんから、日本酒に対する真摯な姿勢を学び、どのように飲んでほしいかなどのお話を伺いました。</p> 

15:30～16:45	鶴乃江酒造見学	<p>酒蔵見学を通して昔ながらの酒造りを学びました。見学後は林ゆりさんに女性杜氏として酒造りに関わるきっかけや、苦勞、消費者へ向けての想いなどのお話を伺いました。</p> 
17:00～20:00	懇親会	<p>末廣酒造の新城猪之吉社長、会津酒楽館の渡辺宗太郎さん、鶴乃江酒造の林ゆりさん、曙酒造の鈴木考市さん、五ノ井商店の五ノ井智彦さんに参加していただき、日本酒の飲み方や食べ物との合わせ方、日本酒に対する想い、本音などを聞くことができる良い時間となりました。</p> 
	宿泊先チェックイン	ホテルニューパレス

2日目【2月21日（土）】

<p>10:30～11:30</p>	<p>会津中央乳業見学</p>	<p>会津中央乳業営業部リーダー二瓶孝文さんから会津産生乳へのこだわり、業種を超えた地元会津坂下の人々との強い絆、震災の悔しさやこれからへの想いなどを伺いました。</p> 
<p>12:00～12:40</p>	<p>昼食@堀ドライブイン</p>	<p>会津名産馬刺し定食をいただきました。</p> 
<p>2:50～14:20</p>	<p>曙酒造見学</p>	<p>蔵見学では、滅多に飲むことのできない搾りたてのお酒も飲ませていただきました。その後、鈴木考市さん、五ノ井智彦さんから Snow Drop 誕生のきっかけ、酒造りをしようと思ったきっかけ、酒造りに対する想いを伺いました。</p>  

14:25～14:50	お土産購入	五ノ井酒店で各々お土産を購入しました。
15:00～16:45	振り返りワークショップ	<p>グループに分かれ、二日間を通して、印象に残ったことを考え、お互いに共有しました。最後に「会津の日本酒を紹介するならどう伝える？」という質問を各自で考えてもらい、数名に発表していただきました。</p>  <p>The image shows a woman holding a piece of paper with handwritten Japanese text. The text reads: 可能性が無限にあるもの 料理(郷土料理や会津の料理) 地産や人がとれたもの 会津の味: 人への (会津の味のこと) 会津の日本酒は会津の味だ 水、風土、作り手、産物、人への</p>
18:00	郡山駅解散	<p>“2日間お疲れ様でした！”</p>  <p>The image shows a group of about 20 people posing for a group photo in front of a building. They are dressed in winter clothing. A banner in the background has some text, including '会津の味' and 'アース牧場'.</p>

⑤担当者の声

まず、多くの皆様のご協力を得て、本ツアーが無事に催行できたことを、心より御礼申し上げます。昨年度、スタ☆ふくは会津にて、「学生が考える会津日本酒プランコンテスト」の企画に関わり、プランを考える全国各地から集まった学生チームのサポート役として、フィールドワークのコーディネーターや当日の運営などに携わり、私はスタ☆ふく側のプロジェクトマネージャーを務めました。このプランコンテストで学生たちが様々なプランを出す中、私だったらどうするだろうか、せっかくできた会津の酒蔵との繋がりを活かさないわけにはいかない、と密かに考えておりました。4年間の大学生活の中で、ツアー企画に本格的に関われるのは最後のタイミングだと考えた今冬に、会津ツアーを企画することを決意し、プロジェクトマネージャーとして自分の思い・考えを形にするチャンスを得られることとなりました。

ツアーテーマはもちろん、「会津の日本酒」です。私自身、プランコンテストがきっかけで、日本酒の魅力を知り、好きになることができました。そんな様々な魅力を知ってもらえるようなツアーにしようと、最初は考えました。

しかし、下見を重ねていく中で見えてきたのは、日本酒自体の魅力を生かす、杜氏さんや蔵人さん、酒販屋さんなど地域の産業を支える人たちの、商売の垣根を越えた、一体感のある向上心や地元に対する愛情、消費者に対する真摯な想いでした。そして、一見関係がないように思えた東日本震災も、地域に影響を与えているということも知ることが出来ました。1泊2日という短い時間のなかで、どれだけのことが伝えられるのか、このコンテンツで伝えたいことが伝わるのか、様々な目線で考えることを意識して、企画に臨みました。迎えた当日は、関係者の皆様のおもてなしの姿勢に助けられ、参加者の皆さんから最後のまとめと振り返りの時間に、「日本酒だけでなく、会津のファンになった」「今まで知らなかった福島の魅力の一つに気づくことが出来た」等の言葉を聞くことが出来ました。日本酒を通して、地域の魅力が伝わったことが、本当にうれしかったです。

また、私の立場は、参加者と地域の人をつなげ、学びの場を作り出すものでありましたが、ツアーを通して私自身も学ばせていただいていると強く感じました。下見の時には聞き出せなかった地域の人々の熱い想いが引き出される場面や、地域の方々の参加者を受け入れてくださる包容力やおもてなしの心など、感銘を受けることばかりでした。この場を借りて、地域の関係者の皆様、参加者の皆様にも、改めて御礼申し上げます。

今回のツアーを経て、私自身も一層、日本酒、会津を好きになることが出来ました。合わせて参加者の皆さんが「責任ある飲み手」として、また震災だけではない福島・会津の現状や魅力を知る、同じ仲間になれたことをうれしく思っています。私自身も、努力し続ける会津の人たちに恥じないよう、一人の「ファン」として、アンテナを張りながら関わり続けていきたいです。スタ☆ふくとしても、今回の学

びや地域とのさらなる関係性を今後も生かしていけるよう、より一層精進していきたいと思います。今後ともどうぞ、よろしく願いいたします。

会津日本酒ツアープロジェクトマネージャー
3年 遠藤はるひ

今回の会津日本酒ツアーは日本酒初心者を中心に実施しましたが、このツアーを企画した自分ももっぱら日本酒初心者でした。このツアーを企画する前は、参加者同様に、日本酒は罰ゲームに飲むお酒、おじさんが飲むお酒、あまりおいしくないお酒、というイメージを持っていました。しかし、日本酒ツアーを企画するうえでの事前の調べや、実際に下見を繰り返し、地域の人のお話を聞くごとに徐々に日本酒に魅かれていく自分がいました。「日本酒飲みたくない」から「日本酒美味しい、日本酒飲みたい」への意識の変化。そんな日本酒初心者の自分の変化を参加者にも感じてほしいと思い、参加者の気持ちになってこのツアーを企画しました。

このツアーの魅力はやはり、ツアータイトルでもある通り、造り手の想いだと思います。そして、造り手の想いが知れるのはスタふくツアーならではのと思っています。今回のツアーでも多くの関係者の方々の想いを聞くことができました。造り手によって作っている時の想いや夢はそれぞれ違い、一人一人の魅力をしっかりと感じる事ができたツアーになったのではないかと思います。

ツアーを終えてみて、本ツアーを企画してよかったなと心から思いました。消費者と生産者の顔の見えるつながりができることを目的としていましたが、それ以上のものが生まれたと思っています。生産者と消費者はもちろんのこと、参加者同士の交流、生産者同士の交流、企画者である私たちも多くの方々と交流をさせていただき、更に輪が広がったと感じます。

最後に、私たちの企画のために協力してくださった地域の方々、参加して下さった皆さまに心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。これからも応援よろしく願いします。

会津日本酒ツアー担当
2年 霜山翼

このツアーに関わるまで、自分自身も日本酒はおじさんが飲むお酒で若い人が飲むものではないと思っていました。しかし、日本酒について勉強したり、日本酒に携わる人の話を聞いて実際に飲んでみたりするうちに、だんだんと日本酒の魅力に惹きこまれていき、このツアーを通して私のように、日本酒をよく知らない人に良さを伝えていきたい、と思うようになりました。ツアーを企画する上で何度も会津に足を運び、酒造りをする蔵人さんをはじめ、酒販店や乳業メーカーの方々といった多くの会津の人々に出会い、製品づくりに対する情熱や地元への愛情を直に感じる事が出来ました。そして次第に、ツアーを通して「日本酒を好きになってほしい」という思いから、参加者には「“会津の”日本酒を好きになってほしい!」、「会津を好きになってほしい!」という思いに変化していきました。

杜氏さんをはじめとした会津の人々の声にじっくりと耳を傾け、会津の日本酒、そして会津の良さを学べるという私たちにしかできない1泊2日のツアー。参加者は絶対に集まるだろう、と自信を持っていました。いざ、募集を開始してみると、私たちの予想と反して参加者は思うように集まらず、催行中止せざるを得ないのでないかというところまで追い込まれたこともありました。しかし、ここまで会津の人々を巻き込んだ以上何としてでもツアーを催行させなければいけないと思い直し、もうひと踏ん張りして、何とか催行決定にまで至ることが出来ました。

そしてついに迎えたツアー当日。参加者の皆さんがツアーのコンテンツを重ねる度に会津の日本酒や牛乳の価値を見直し、会津の人々に惹きこまれている様子がとても印象的でした。私自身も準備段階では知らなかったことをたくさん知ることができ、参加者の皆さんと会津の方々がいるからこそ生まれるエネルギーのようなものを感じ、とても嬉しく思いました。

ツアーを終えてみて、私たちは多くの人々に支えられているからこそ活動できているのだと改めて感じました。私たちの企画に賛同し、温かく迎えてくださる地域の方々や参加して下さった皆さまの力無くして、今回のツアーは成り立ちませんでした。この場を借りて、協力して頂いた会津の方々、参加者の皆さまに心より御礼申し上げます。

会津の方々や参加者の皆さまに頂いたご恩はこれからも会津と関わり続けていくことやスタ☆ふくの活動を続けていくことで返していきたいと思えます。

会津日本酒ツアー担当
2年 羽賀さやか

⑥本ツアーの価値・評価 (2015年3月4日ツアー反省会より)

今回、会津地方では初のツアー開催となりました。そんな会津でのツアーで成し遂げられたこと、成し遂げられなかったこと、今後へ生かす反省点などを、地域関係者と参加者のそれぞれの視点で考察していきました。

●本ツアーで成し遂げられたこと

(1) 地域にとって

- ・若い人に日本酒を飲んでもらいたい、飲んでくれる人の裾野を広げたい、という関係者の思いに、学生料金という形で多くの学生を連れてくることが出来た。(参加者の8割が学生)
- ・震災以前からある地域の魅力を発信することが出来た。
- ・日本酒をはじめ、地場産業に関わる“人”という焦点やストーリーで魅力を発信することが出来た。
- ・プランコンテストを経ての継続的な関わりが出来た。
- ・ツアー参加者自身によるポジティブな情報発信

(2) 参加者にとって

- ・地域産業に関わる人の生の声を聞き、商品や地域への愛着が醸成された。
- ・会津、日本酒に対するイメージの変化。理解、興味の深まり。
- ・今後の会津を応援する気持ちの醸成

●本ツアーを経ての課題・考察

初のツアー開催ということもあり、プログラムとしては手探りであったことは否めません。大きく上がってきた課題としては、地域の良さだけを見せるだけで良いのか？というものです。本ツアーでは酒造りに関わる人たち自身のストーリーを注視し、前向きな向き合い方や、震災を経ても立ち上がり頑張る姿などをみせてきました。その裏に潜んでいる根本的な課題にはあまり目を向けられる構成ではありませんでした。ポジティブなイメージ、知識だけを与えるだけでは、本当の学びには結びつかないのではないかと考えます。私たち自身ももっと勉強して、そこに自分たちができることはないのか、と追求し続ける姿勢を持った方がよいと考えました。また、地域の人たちと課題意識を共有していけるようなより良い関係づくりも重要であると考えます。

また、関連して地域にとってのニーズ、メリットを十分には把握できていなかったと感じています。私たち自身が、今回のツアーで成し遂げられたことを問い続ける姿勢を大切にしたいです。しかし、地域関係者の方々にとっても初めてのツアー開催であったので、今回で雰囲気をつかんでいただけたと思います。今後も継続的に関わらせていただく中で、更に、ツアーの効果や価値を高めていけるよう、関係者の方々とも話し合いを重ねていけるような関係性を築いていきたいと考えます。

6. 広報／メディア掲載について

<宣伝方法・経緯>

1月7日	募集開始
2月5日	ツアー催行決定

- ・スタ☆ふく HP (<http://sutahuku.jimdo.com/>)
- ・Facebook ページ
…イベントページ作成、リレー投稿、参加希望者へコンタクト
- ・twitter アカウト (@Study_Fukushima)
…準備の進捗状況やツアー告知などをこまめに発信
- ・スタ☆ふくブログ (<http://ameblo.jp/sutafuku/>)
…事前下見の様子やツアーコンテンツの紹介などを写真と共に掲載

- ・テレビ局、ラジオ局、新聞社への取材依頼
- ・告知協力のお願い
 - －福島大学教授、ゼミ
 - －各大学のボランティアサークル、学生団体、
 - －ボランティア、観光、日本酒に関連する団体
- ・スタッフの知人を通じた告知

<メディア出演・掲載履歴>

▽TV 出演

- ・3/7 夜 24 時～ (3/8 午前 0 時～0 時 24 分) NHK・Eテレ
「福島をずっと見ているTV Vol.45」 <http://www4.nhk.or.jp/fukushimazutto/>

▽ラジオ


- ・1月28日 FM ポコ(FM76.2)
「ふくしま絆づくり FM 放送」
- ・1月30日 J-WAVE
「JAM THE WORLD」 生放送

▽インターネット

- ・FTV ウェブサイト「FTV へようこそ！」
<http://www.fukushima-tv.co.jp/visitor/2015/01/post-208.html>

- ・福島 TRIP「福島県民の“力強さ”を感じる、話題のスタディーツアーに参加してきた！」
 - 【前編】 <https://www.fukushimatrip.com/875>
 - 【後編】 <https://www.fukushimatrip.com/916>

【福三報社提供写真】



「会津日本酒 2021年」
「田舎暮らし」
 28日、来月1日

地域ツアーで触れ合いを

福島の学生でつくる「スタ☆ふく」が、地元の人々と触れ合い産業や暮らしを体験するツアー「会津日本酒」を企画し、22日、28日、29日、30日の4日、会津地方の酒蔵や農家を訪ね、酒造りや農業の現場を体験する。ツアーは、会津地方の酒蔵や農家をめぐり、酒造りや農業の現場を体験する。ツアーは、会津地方の酒蔵や農家をめぐり、酒造りや農業の現場を体験する。

福大生企画 酒蔵見学 就農者と懇談

会津日本酒ツアーは、会津地方の酒蔵や農家をめぐり、酒造りや農業の現場を体験する。ツアーは、会津地方の酒蔵や農家をめぐり、酒造りや農業の現場を体験する。

会津日本酒 二本松田舎暮らし

風評払拭へ2ツアー
 福島大生企画 参加者を募集

福島第一原発事故の風評被害を払拭し、地域活性化を図る。福島県内各地の酒蔵や農家をめぐり、酒造りや農業の現場を体験する。ツアーは、会津地方の酒蔵や農家をめぐり、酒造りや農業の現場を体験する。

宮城、福島、岩手県南の主な放射線量(20日)

一関 0.05	気仙沼 0.04
要原 0.06	登米 0.04
大崎 0.04	石巻 0.05
仙台 0.04	名取 0.03
大河原 0.06	岩沼 0.04
七ヶ宿 0.03	角田 0.07
宮城野原 0.05	山元 0.09
白石 0.08	丸森 0.10
福島 0.23	伊達 0.19
二本松 0.24	相馬 0.10
会津若松 0.04	飯館 0.33
郡山 0.12	南相馬 0.11
南会津 0.03	田村 0.10
	双葉 1.37
	いわき 0.07

【注】時間当たりのマイクロシーベルト。原子力規制委員会などによる。女川原発は東北電力調べ。*

◇福島の「今」を感じて考える
 スタディツアー参加者募集 福島大の学生有志が震災後に立ち上げた団体「スタ☆ふくプロジェクト」が、風評被害の払拭と地域活性化を目的に1泊2日のツアーを企画。参加者を募集している。ツアーは「会津日本酒」（2月20日出発、旅行代金1万9200円）と「東和田舎暮らし」（28日出発、1万6500円）の2つ。いずれもJR郡山駅発着。学生割引も。申し込みは、福島交通観光 024・531・8950。

7. ご協力いただいた方々

<企画>

末廣酒造株式会社：新城猪之吉様 小竹晴彦様 佐藤寿一様

鶴乃江酒造株式会社：林ゆり様

会津中央乳業株式会社：二瓶孝文様

曙酒造合資会社：鈴木孝市様

五ノ井酒店：五ノ井智彦様

會津酒楽館 渡辺宗太商店：渡辺宗太郎様

<企画実施>

(株)福島交通観光

今しかできない旅がある
若旅

2013年6月には、福島県復興のために地元若者が県内外の多くの若者を巻き込んでツアーを実施している点が評価され、「第1回若者旅行を応援する観光庁官賞・東北ブロック賞」を受賞しました。

このプロジェクトは 住友商事「東日本再生ユースチャレンジ・プログラム—活動・研究助成—2014年度」及び、公益法人協会「東日本大震災 草の根組織応援基金」助成対象事業としてご支援いただいております。

8. 総括

スタ☆ふくプロジェクトとして、11回の開催となる今回のツアーは、いくつか新しい試み、チャレンジをした企画となりました。会津で「日本酒」をテーマとした新しいプログラムを作成するにあたっては、多くの関係者の方々にご助言やご協力をいただきました。プロジェクト発足から3年目、11回とツアーの回数を重ねることができることに感謝しつつ、反省点・改善点を見つけ、今後も新しい挑戦をし続けることが一層求められていると感じています。

まず、これまで参加のハードルが高かったと思われる学生が足を運びやすくなるよう、今回、初めて「“学生料金”の導入」を試みました。一般料金との差額が大きくなりすぎてしまったことなど、反省点は多々あったものの、結果として、特に若い人に会津の日本酒を知ってもらいたいという、地元関係者とスタ☆ふくの意図に合致する方々に参加していただくことができたことは、大きな収穫だったと思います。より、多くの人に実際にスタ☆ふくのツアーに参加していただけるよう、今後につながる判断材料として捉え、今回の反省を生かしながら料金設定に関しても、試行錯誤していきたいと考えております。

次に、テーマに関してですが、これまでの私たちは、「メディアでは伝わらない震災後の福島のリアルを伝えたい」というプロジェクト開始直後からの想いを継承しながら、震災から立ち上がる福島の現状を見てもらう、ということをお願いしてきました。しかし、「被災地福島」としての切り口のみでプログラムを作成することに対して、「このままでいいのか」という感覚を、活動を続けるにつれて持つようになりました。それは震災から月日が経つにつれ、地域ごとの復興のスピードや置かれている現状の違いが大きくなっていることを、活動を続けてきた私たち自身が、直接感じはじめたことが大きな理由の一つだと思います。また、参加者や地域関係者が求めていることは何か、私たちが活動によって双方に生み出せる「価値」とは何か、ということを考え続けるなかで生まれたものです。もっと福島のポジティブな側面、“復興”や“被災地”というワードに興味がない人にでも「参加してみたい」「福島に足を運んでみたい」と思わせるテーマやアプローチでプログラムを作成してみたいと考えるようになりました。そこで、生まれたのが、今回の「会津日本酒」というテーマです。日本全体で、若者をはじめ全体的に日本酒の消費量が落ち込んでいるという課題があるなかで、スタ☆ふくツアーに参加し、福島に足を運ぶことで日本酒を愛する消費者が生まれる、ということは、「日本酒の消費拡大」と「福島の風評被害払拭」等、複合的な課題解決につながると思います。

私たちのビジョンは「先進的な地域活性化モデルとしての福島」の実現です。今回のテーマ設定は「福島のリアルを伝える」ツアーからの方向転換をする、というわけではありません。震災当時の悔しさ、今なお続く風評被害や実害、それに対してたゆまぬ努力を続ける生産者をはじめ地域住民の存在、といった背景は“地域”やそこに生きる“人”を知るうえで切り離すことはできないものです。震災の記憶は、それぞれの地域にそれぞれの文脈として刻まれています。したがって、「被災地福島」という背景を理解し、丁寧に伝え続けていくことは、地域に密着したプログラム作成を行う私たちの使命だと感じています。しかし、福島の地域活性化のためには、より多くの人に「福島」のこれからを一緒に考え

たり、魅力を語り合ったりできるような「仲間」になってもらう必要があると考えます。したがって今後も、私たちなりに地域の現状を踏まえたうえでより多くの人を巻き込めるような魅力的で面白いツアープログラムを作ることをはじめ、ツアー以外にも地域おこしの新しい形を模索し続けていきたいと考えています。

最後になりますが、私たちは地域の方々の協力があつてこそ、充実したツアーをつくることができおり、今回も地域関係者の方々には全面的に協力していただきました。また、今回の企画にいたった経緯として、昨年度に協力団体として企画に携わらせていただいた「学生が考える会津日本酒プランコンテスト」がありました。改めて、両企画の関係者をはじめ、日ごろから応援して下さる多くの皆様に深く御礼申し上げます。スタ☆ふくプロジェクトは、2015年4月で活動が始まって4年目を迎えます。今後とも何卒、ご指導ご鞭撻いただきながらスタ☆ふくを応援くださると幸いです。

2015年3月
代表 吉田 江里



2日目参加者集合写真—会津中央乳業にて—

9. お問い合わせ先



スタ☆ふくプロジェクト

2代目代表：吉田江里（～2015年3月）

3代目代表：羽賀さやか（2015年4月～）

住所：福島県福島市金谷川1

福島大学学生課 スタ☆ふくプロジェクト 宛

Mail: suta.fuku@gmail.com

HP: <http://sutahuku.jimdo.com/>

ブログ: <http://jasp-sutafuku.jugem.jp/>

編集

「スタ☆ふく」プロジェクト 会津日本酒ツアー2015冬 担当

福島大学 行政政策学類 3年 遠藤はるひ（プロジェクトマネージャー）

福島大学 行政政策学類 2年 羽賀さやか

福島大学 共生システム理工学類 2年 霜山翼

福島大学 人間発達文化学類 3年 吉田江里（団体代表）